

6月の技術対策（水稲）

平成16年6月1日

J A きたそらち・J A 北いぶき
空知北部地区農業改良普及センター
雨竜西部地区農業改良普及センター

1 適切な水管理で元気な稲に！

移植後は、初期茎数の確保と生育を促進させる水管理が大切です。

(1) 移植後の水管理の注意点

- ア 夜間から早朝入水・日中止水を基本に、4cmの水深を保ちましょう。
- イ 低温時や強風の場合は、深水管理（草丈の2/3程度）を行いましょ。
- ウ 活着後は、日中止水、浅水（水深4～5cm）とし、水温の上昇をはかりましょ。かんがいは、用水温と水田水温との較差の小さい夜間から早朝に行いましょ。
- エ 分けつ開始以降の水深は、4cm程度とし日中は止水し、水温の上昇をさせ初期生育の促進を図りましょ。

表1 分けつ期における適水温

水温	分けつの状況
32	分けつ盛ん
29	分けつ順調
20	大体分けつ順調
14	分けつの休眠芽が多くなる

(2) 過剰分けつの抑制

「きらら397」では、6月15日頃の茎数が300本/m²、20日に400本/m²、25日に575本/m²、30日に750本/m²以上の場合は、過剰分けつの恐れがありますので、10cm程度の深水管理で分けつの発生を抑制しましょ。

表2 過剰分けつとなる茎数のメヤス（「きらら397」）

栽植密度		株間 (cm)	6月15日	6月20日	6月25日	6月30日
(株/m ²)	(株/坪)		300本/m ²	400本/m ²	575本/m ²	750本/m ²
27.5	91	11	11本/株	15本/株	21本/株	28本/株
25.3	84	12	12	16	23	30
23.3	77	13	13	18	25	33
21.6	71	14	14	19	27	35

(3) ワキ（土壌還元）対策に中干しと溝切りを！

透水性が不良な水田や稲わらを春に鍬き込んだ水田は、地温の上昇に伴いワキが発生しやすくなります。ワキの発生は水稲の根を傷め生育を遅延させます。

ワキの発生が激しい場合は中干しを実施しましょ。最低気温14℃以上で好天が続く時に、軽く土壌表面にヒビが入る程度としましょ（3～5日以内）。

さらに、溝切りを併せて行うと効果的です。

表3 土壌還元（ワキ）の程度とその対策

発生状況	生育への影響	対策
水田内に踏み込むと、気泡の発生が多い。	根の活力低下	水の入れ替え 暗きょ水こうの開放
水田内に踏み込むと、盛んに気泡が発生する。	根張り不良	水こうの開放 一時落水
晴天時、自然に気泡が発生し、音が聞こえる。水田内を歩くと、著しく気泡が発生する。	根の伸長阻害	幼形期前の数日で 軽くヒビが入る程度 の中干し

2 除草剤の使用は適切に！

除草剤の効果を最大限に引き出すためには、雑草の種類と生育状況で薬剤を選択することや適期・適量を守ることが必要です。

(1) 除草剤使用上の注意事項

- ア 事前にそれぞれの剤にあった使用要領を確認し、適切に使用しましょ。
- イ 除草剤の処理層を確実に作るためにも、**散布時の水管理は3～4cmとし、散布後4～5日は入水や落水をしないようにしましょ。**
- エ 代かきから移植までの期間が長いと雑草の生長も進みます。除草剤の使用時期は、雑草の出芽直後が最も効果的です。雑草の葉令に注意して、適期間内に早めに散布しましょ。
- ウ 除草剤の使用時期は、代かき日～移植日まで5日間として設定しています。この期間が、5日よりも長くなったときには、その分処理時期を早めることが必要です。

+5～+10の除草剤を使う場合

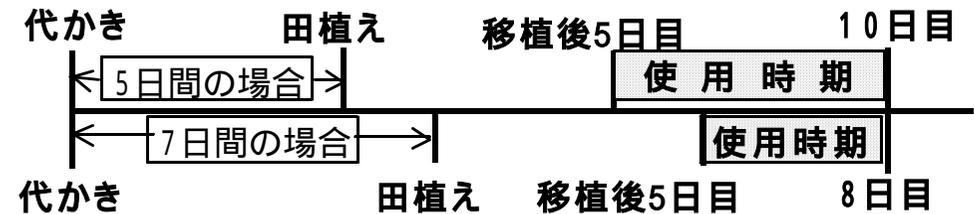


図1 除草剤の適切な使用例

(2) 難防除雑草、SU抵抗性雑草の防除

SU（スルホニルウレア）系除草剤に抵抗性を持つ雑草（ミズアオイ・イヌホタルイ・アゼナ類）が、近年増えています。前年、これらの雑草が残草した水田では、非SU剤を含む除草剤の使用をおすすめしましょ。

ただし、抵抗性のイヌホタルイを対象雑草とする場合は、ヒエの葉令に合わせて施用すると、取りこぼす可能性があるため、施用時期は早めにする必要があります。

SU剤の成分

ベンスルフロンメチル、ピラソスルフロンエチル、イマソスルフロンシクロスルファミロン、エトキシスルフロン、アジムスルフロン

表4 SU抵抗性雑草および難防除雑草の防除例

対象雑草	処理法	初期一発剤	中期・後期剤
ホタルイ ミズアオイ アゼナ	一発	ウリホス粒剤15 ウリホス1kg粒剤 ウエスフロアブル ハチクフロアブル スマートフロアブル	
	体系	ソルネット1kg粒剤 ショキニーフロアブル	マメットSM1kg粒剤 バサグラン粒剤・液剤
ミズアオイ アゼナ (ホタルイの 残草ない)	体系	シング乳剤 ソルネット1kg粒剤 草笛フロアブル ショキニーフロアブル	マメットSM1kg粒剤 バサグラン粒剤・液剤
ホタルイ以外 多年生雑草 (オモダカ)	一発 (体系)	草笛フロアブル スパークスター1kg粒剤 ダイナマンフロアブル ミスターホームランフロアブル	*残草がある場合* マメットSM1kg粒剤 バサグラン粒剤・液剤

除草剤の選択の際には、「平成16年度除草剤使用基準」を参考にしましょう！

3 初期発生害虫の防除

発生予察を行いより防除効果を高めましょう。

表5 初期害虫の要防除水準と防除方法

害虫名	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ
加害部位	成虫:葉, 幼虫:根	葉
時期	6月中旬～下旬	6月中旬～下旬
多発しやすい 条件	高温多照(最高気温25 以上) 軟弱、徒長苗では 被害が助長される。	発生適温は20～25 で、低温適応性が高い。 幼虫は乾燥に弱く、40%以下の湿度では 生存率が著しく低下する。
要防除水準	株当たりの成虫寄生数 0.5頭内外	産卵最盛期(6月下旬頃)に、 株当たり平均2卵塊
耕種的防除	産卵に好適な条件をつくらない ために可能な限り深水を避ける。	
薬剤防除	方法	水面施用、茎葉散布 有機リン系・カーバメイト系薬剤に抵抗性 を示す場合があるので、合成ピレスロイド系 ネライストキシン系薬剤を使用する。
	薬剤名 (使用量/10a)	シクロパック粒剤(7～10パック) エピセクトレボン粉剤DL(3kg)

4 不稔防止のために幼穂形成期の確認をしましょう

不稔の多発は、減収するだけではなく、蛋白含有率を高めます。不稔を防止するには、幼穂形成期から約20日間の水管理が重要なポイントとなります。

幼穂形成期は平年で7月2～3日です。ここ数年は6月25日前後で幼穂形成期を迎える傾向にあり、6月20日過ぎからの観察が必要です。

(1) 幼穂の確認方法

平均的な生育の稲の主茎を根元から切り取り、その主茎の基部をカミソリで縦切りにします。幼穂長が2mmに達した時を幼穂形成期とします。幼穂の形成されている主茎基部は丸くなっています。

(2) 幼穂形成期後10日間は前歴期間

前歴期間は花粉母細胞の分化が始まり、花粉の数が決まる大切な時期です。

この前歴期間に花粉を確保することが籼数の増加にもつながります。

必ず深水管理を行いましょう。

(3) 前歴期間の水管理

水深は徐々に深くします。前歴期間の終わりには、10cm程度になるようにします。1回当たり2～3cmを目安に水深を増加させましょう。(急激な深水は水温が低下し、保温効果が劣ります。)

(4) 前歴期間の水温

前歴期間の最低限界温度は、15～20 です。従って、日平均水温は21 以上を目標に水温確保に努めましょう。(日中の入水やかけ流しは避けましょう。)

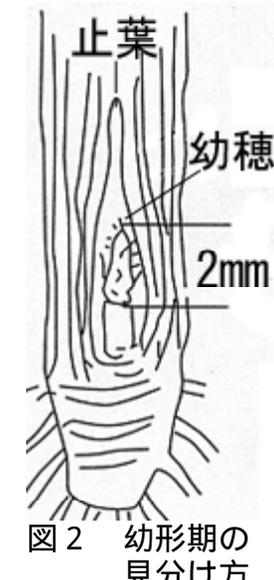


図2 幼形期の見分け方

5 葉いもち病の予防薬剤散布

「彩」・「ほしのゆめ」・「ななつぼし」は、いもち病耐病性が不十分です。また、茎数が多く大出来したほ場や風通しの悪い場所は発生しやすい環境にあります。

表6 水面施用剤の使用量

使用薬剤	使用量 (10a当り)	防除時期	注意事項
オリゼメート1キロ粒剤	1kg	葉いもち初発 の10日前ころ	施用後4～5日間は水深5cm程度の止水とする 落水およびかけ流しはしない 漏水田では使用を避ける
コラトップ1キロ粒剤12	1～1.5kg		
コラトップパック	10パック		

水面施用剤の使用は、6月下旬までに行いましょう。

また、補植用の苗箱の放置はいもち病の発生源となりますので、さし苗終了後、速やかに水田周辺から撤去しましょう。

減農薬栽培等で栽培基準が決まっている場合には、定められた薬剤を使用してください。